

【英語】

藤田後期の英語には集中力が求められる。その理由として4点挙げる。

- ① 長文の中で専門用語の語句注の数が多いため、その単語を何度も確認しながら問題に向かう必要があるため受験生の視点が忙しくなる。
- ② 長文の中での整序英作がかなり難しい場合がある。単語の名詞形記述と3番の単語を決められたスペルで記述させる問題は絶対に落とせないだろう。
- ③ 長文の中で真の理解を求めるために15字から20字で日本語で記述させる場合がある。2009年には英語で記述させる出題も見られた。この記述問題は差がつくだろう。空所補充記述問題になる場合もある。
- ④ 2010年のように医療関係の長文から医療訴訟の問題まで出題される可能性もある。「臓器移植」絡みも注意すべきである。

医療問題を長文の題材に用いるケースが多いため、医療用英単語に強い生徒が有利かも知れない。長文の内容を完全に読み込む必要があるために疲れてしまうケースもあるだろう。かなり問題を解くためのエネルギーの消耗度は高いと言える。単語のスペルを推測させる問題と単語の名詞形を書かせる問題は取りこぼすと大きな差がつくと言える。英語の問題は難しいと言える。1点でも多く取る正確さと集中力が大きな要素になると言えるだろう。

藤田後期は3教科なので1教科でも完全に落とした時点で終わりだろう。

【生物】

藤田保健衛生大学医学部の生物は前期・後期を問わず、一般的な受験生物にみられる典型的なパターン問題が少ないことが最大の特徴である。

自分自身でよく理解しているわけでもなくとも決まりきった解法に則れば正解に辿り着けるはずとか、よくあるグラフだから多分あの重要事項を述べれば点数がもらえるはずという、いつもの便利な逃げ道が藤田では閉ざされている。

医療系の話題をもとにした出題も多い。従来、私大医学部ではよく見られたのだが、他大ではたんに特殊な知識問題に成り下がるリスクを避けて大幅に減少したのに対し、藤田では以前として命脈を保っている。

過去には2年連続で似通ったテーマが出題されたこともあり、前期を考慮したとしても予想は難しい。

以下の3点をチェックしてみて欲しい。

- ① まずは進化・分類。普段の学習では多少手薄になりがちな分野だけに、まとめノートやプリントなどにザッと目を通しておこう。過去問の内容としてはたんなる知識問題が多いので、出たら高得点が見込める。
- ② 耳・心臓・肝臓・神経やホルモンなどのホメオスタシスも重要である。資料集を見直し、医療系テーマの場合であっても、基本的な設問は落とさないように注意しよう。
- ③ 遺伝子と発生の融合問題も狙い目である。実験データがあったり計算が入っていたりと単純な問題にはなりにくいのだが、これもたとえば遺伝情報の読み方やDNA計算など基本事項の週熟度で勝負してみることに。

あと数校しかない私大医学部後期試験の、貴重な1つとなる。頑張ってください。